

事業評価のスケジュール(案)

資料 1-1

項目	令和3年度(2021)		令和4年度(2022)			令和5年度(2023)		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
評価項目の検討	←	→	←	→				
評価手法・アンケート内容等の検討	←	→	←	→				
実績等のとりまとめ、分析			←	→				
アンケート調査の実施、とりまとめ、分析			←	→	←	→		
事業実績の評価・今後の課題・方向性の検証			←	→	←	→		
評価報告書作成			←	→	←	→		
森と緑づくり委員会	○	○	○	○	○	○	○	○

凡例
計画 ←→
実施状況 ←→

事業評価報告書公表
市町村・関係者ヒアリング
実績評価・課題等検証
経過報告 中間報告 公表
取りまとめイメージ ↓
委員会にて意見聞き取り
委員改選
発行

あいち森と緑づくり事業 評価報告書 (中間) について (案)

1 経過と予定

- 「あいち森と緑づくり事業」は、平成21年度から開始し、10年を1期とする計画に基づき森林・里山林の整備や都市の緑の保全・創出、環境学習等に取組んでいる。
- 令和5年度に計画見直しを行うこととしており、令和3年度に評価項目を検討した。令和4年度に県民アンケートや市町村等へのヒアリングを実施し、事業評価報告書(案)を年度末までにとりまとめ、公表する。

2 事業評価報告書(中間)の概要

(1) 主な事業の実施状況

事業区分	全体計画 (R1~R10)	実績見込み (R1~R3)	進捗率 (%)
人工林整備(間伐) (次世代森林育成)	16,000 ha 450 ha	3,612 ha 29 ha	23% 6%
里山林整備(提案型里山林) (指導者養成 (ネットワーク形成))	40箇所 300人 10回	11箇所 79人 3回	28% 26% 30%
都市緑化(身近な緑づくり) (緑の街並み推進) (美しい並木道再生) (県民参加緑づくり)	125箇所 1,100件 150箇所 1,010件	19箇所 418件 41箇所 386件	15% 38% 27% 38%
環境活動・学習推進	750件 70件	307件 23件	41% 33%
生態系ネットワーク 普及啓発(木材利用) (体感ツアー)	20件 —	31件 3回	155%

(2) 県民や事業関係者等の意識

- ① 県民等アンケート
 [一般県民 1,116人/3,000人(層化二段無作為抽出)、回答率:37%]
 [県政お届け講座 17人/30人(全数調査)、回答率:57%]
- ② 法人アンケート
 [58社/200社(等間隔抽出) 回答率:29%]
 [市町村アンケート
 [項目別に選定:9~45市町村/9~54市町村、回答率56%~100%]
 ※事業評価報告書(案)P46「(参考)1調査のあらまし」を参照]
- ④ 事業関係者アンケート
 [事業実施主体・参加者 658人等/916人等、回答率:50%~100%]
 ※事業評価報告書(案)P52「(参考)1調査のあらまし」を参照
 調査時期:令和4年10月~11月

(3) 主な事業の課題及び意見や要望等

事業区分	課題、意見や要望等
人工林整備(間伐)	防災・減災対策を継続し積極的な推進が必要 間伐材の有効活用が必要
人工林整備(次世代森林育成)	人工林の若返りと獣害対策や保育が必要 花粉症対策苗木の確保、事業効果の持続が必要
里山林整備	活動団体の高齢化、協定期間20年間の緩和 事業要望が多く事業が長期化になる
都市緑化	緑化の質・量の向上と、継続的な支援が必要 事業が一層活用され、効果を高める検討が必要
環境活動・学習等推進	団体にとつて利便性の高い制度への移行 より多くの県民が参加できる取組が必要
普及啓発	税や事業の認知度が低位、木材利用のニーズが高 い、「森と緑」へのニーズの多様化

(4) 今後の方向性の検討

- ① 人工林整備(間伐)
- ② 人工林整備(次世代森林育成)
- ③ 里山林整備
- ④ 都市緑化推進
- ⑤ 環境活動・学習等推進
- ⑥ 普及啓発(木の香る都市(まち)づくり)
- ⑦ 普及啓発
- ⑧ その他
- ⑨ 第2期事業計画開始後の変化等
- ⑩ 事業の進め方

別添「事業評価報告書第5章の<課題や意見等への考慮すべき事項>を参照

<第2期事業計画での課題や意見等>

<課題や意見等への考慮すべき事項>

森林
(人工林・間伐)

- 林業活動では整備が困難な人工林の間伐の推進
- 防災・減災対策の実施は重要であり、ライフライン確保の観点から継続を求める県民の声が多い
- 間伐材を有効活用し、カーボンニュートラルへの貢献が必要

- 防災・減災対策やライフライン確保に関する県民ニーズに向けて引き続き対応
- 道路沿いの間伐材を積極的に搬出し、有効活用を推進
- 小規模な林業経営体が間伐できる事業やサポートの検討

森林
(人工林・植栽)

- 公益的機能を持続的に発揮させるためには、人工林の若返りと獣害対策や保育が必要
- 花粉症対策苗木の確保や、獣害対策効果を持続させることが必要

- 植栽と獣害対策の推進
- 花粉症対策苗木の植栽事業地確保に向けた連絡調整
- 施工後の適正管理に繋がる取組に向け、事業内容を検討
- 補助対象苗木の基準を緩和

里
山
林

- 活動団体会員の高齢化と、それに伴う活動の停滞が懸念
- 協定期間が20年間と長く、活動団体の負担が大きい
- 事業計画の要望が多く、要望から事業完了までの期間が長期化

- 活動団体が複数の団体が協働で活動できるよう検討
- 活動団体の実態調査と基準(協定期間等)の見直しを検討
- 目標計画量に見合った事業費配分を検討

都
市
の
緑

- 事業活用により、緑化の質・量の向上及び県民の都市緑化に対する普及啓発効果が認められる
- 都市緑化事業を継続する必要がある、同事業に対して継続的な支援が求められている。
- 一層活用され、実施効果を高める検討が必要

- 引き続き、都市の緑を守り、育てる取組を推進する
- 緑化イベントの開催など、効果的な普及啓発を実施する
- 一層活用され、実施効果を高める手法について、検討をする

環
境
活
動
・
学
習
等
推
進

- 若年層を中心により多くの県民参加を促すため、新しい取組も含め様々な団体に広く事業を行っていただくことが必要
- 交付金利用団体にとって、より利便性が高い制度にすることが必要
- 地域本来の自然環境を保全・再生してつなげていくことが必要

- 当事業について幅広く周知し、環境活動等の取組を一層促進
- 引き続き、団体の取組を支援するとともに、団体にとって利便性が高い制度となるよう改善を検討
- 多様な主体が連携した生態系ネットワークの取組を拡充

普
及
啓
発
等

- あいち森と緑づくり事業の認知度が2割以下と低調
- 愛知県木材利用促進条例の制定に伴い、民間建築物等での木材利用のニーズが高い
- 「森と緑」へのニーズの多様化

- SNSを活用し、世代に対応した情報を発信する方法へ移行
- ニーズに応じた目標計画量と事業費配分を検討
- ニーズに対応した取組の検討